

平成24年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号 6 - 1 - 26

事務事業名	ミリカホール運営事業			担当課係	健康増進課 保健センター 管理係
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」		記入担当者	
	中項目	①伝統・文化の継承・発展とスポーツの振興		内線等	
	小項目	2. 市民文化と芸術の振興		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	1
	目	7	ミリカホール費	事業	
開始年度	平成	11	年度	根拠法令・要綱等	小松島市多目的ホール条例
				保健衛生費 1.ホール運営委員報酬 2.臨時職員等賃金 3.施設管理運営費	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 小松島全市民のための芸術文化発信の中心として、ミリカホールの健全な活動運営を実現させる。
事業の目的（意図）	（事業実施によってどのような状態にしたいのか） ホールの訪問者が、快適で心地良く、満足していただける施設として、ホールをより魅力的でより安心して訪れることができるものとする。
事業の内容（内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 毎年度ごとに外部識者によるホール運営委員会において次年度の活動を協議する。 またその実現に向けて施設・設備の維持管理に努め、定期保守点検や修理改修改善等を行い、安全で快適な環境を整えていく。
事業の背景（経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 市民の文化活動の核として、全市民に開かれたホールをめざして事業開始した。各年度ごとの運営事業は専門的知識を持つ外部有識者で組織されたホール運営委員会によってきた。築14年を経過した施設の老朽化には、必要性・緊急性を見極め、優先順位の高いものから、計画的に改修を行ってきた。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	施設利用日数		自主事業・貸館事業での利用日数					
	単位		H23	H24	H25	H26		将来目標 (年度：平成)
日	目標		252	272	272	272	<ul style="list-style-type: none"> 設備の安全性 ホールの快適性、信頼性 利用者満足度 	
	実績		147	155				使用可能日数 (開館日数-使用不可日)
	達成度		58.3%	57.0%				
活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H23	H24	H25	H26	指標の説明
	ミリカホール使用料収入	円	計画	3,653,000	3,800,000	3,800,000	3,800,000	貸館による使用料収入 計画は当初予算額、実績は決算額による
			実績	4,020,621	3,807,121			
	貸館事業実績延べ利用日数	日	計画	234	241	241	241	貸館事業での利用日数
			実績	127	114			
				計画				
			実績					
			計画					
			実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	23年度決算		24年度決算		25年度決算		24年度予算		
A	直接事業費	国県支出金	0	0	0	0	0	0	17,885,000	
		地方債	0	0	0	0	0	0		
		利用者負担	4,020,621	3,807,121						
		一般財源	12,093,786	14,062,199						
		人件費 ①×②	2,799,000	2,956,209			0			
	B	職員平均人件費①	6,997,500	7,390,522						
		従事した割合②/人	0.40	0.40						
		A + B	18,913,407	20,825,529			0			
	単位コスト	活動指標の説明		全体コスト/開館日数 (309日)	全体コスト/開館日数 (309日)				備考	
		活動指標 1 単位当たりコスト		61,208	67,397				平成23年4月1日現在 人口41,204人	
市民一人あたりのコスト		459	509				平成24年4月1日現在 人口40,876人			

■事業を取り巻く環境

	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測)
国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	ホール運営のための光熱水費・人件費等必要経費の負担に加え、施設の経年劣化に対応するための維持管理費が今後も増していくと考えられる。補助や助成の動向も不透明で、今般の電気料金改定にみられるとおり、社会環境が好転する可能性は少ないと思われる。
	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など)
事業に対する住民の意見	県内他ホールと較べて貸館規定や料金、稼働率等に大きな相違はなく、現時点では個々の要望等へ対応する形である。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	ミリカホールは様々な催物や文化活動に利用されており、市の施設として利用価値が高い。一方、自主事業等の参加者のアンケートでも満足度は高く、また市民ニーズをよりの確に反映するための外部識者による運営委員会を開催している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	建物・設備の管理については、保健センターとの複合施設であることから、経済性・効率性の面で、市で一括して行うことが妥当である。運営面でも、低料金での文化芸術活動の提供を実現するため、公営で行うべきである。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	保守点検等の委託業務については、3年間の長期契約により高額な委託料の削減を実現している。光熱水費やその他の経費についても、継続的計画的にLED電球取替や設備修理等を行い節電に努める等、効率的な運営が実現されている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	施設の修繕等については緊急性が高いものがあるが、運営委員会の開催、設備の保守点検等については途切れることなく継続していくことが重要である。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	数値はいずれも前年比で微減であるが、長期契約による維持経費の自然増を除けば、ミリカホール全体の経費としては、23年度より圧縮されており、費用対効果の成果は上がっている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	施設の経年劣化に伴う修繕改修が件数・経費とも増えてくると考えられる。今後も、清潔で安心と評価されるよう、さらに運営に努める。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評 価	2	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定 評価点 66 2	判定に至った理由 ホール運営管理者の責務として、施設の維持管理はホールの安全性・快適性を確保していくため、今後も継続して実施していかなければならない。また、ホール運営の適正化を図るため、ホール運営委員会の開催は必須であり、有識者の意見を汲み入れ、文化・芸術の振興に役立てていくことが重要である。
		2 現状のまま継続する	60～79点		
		3 改善・効率化し継続	50～59点		
		4 見直しの上縮小する	40～49点		
		5 終期設定し終了	30～39点		
		6 休 止	20～29点		
		7 廃 止	19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】
建物・設備の劣化状況に合わせて、数年先を見据えた継続的で計画的なホール運営に努める。

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評 価	2	1 拡 充 す る	判定説明 ミリカホールは小松島市の芸術・文化の振興の拠点となるべき施設であり、市民に身近で音楽・芝居等に触れる機会を与えるため、その役割は今後ますます重要なものになってくるであろうと考える。ホールの在るべき姿を有識者による審議機関で協議し、それを実現するために安全・快適なホール環境の整備を進めていくことが今後も重要である。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	